

## 資料 2

西東京市公民館運営審議会  
令和元年度第10回定例会議

## 令和元年度 公民館主催事業報告書

公運審提出日 令和2年1月22日

NO	実施館	事業名	事業目的	期間・回数	参加者数	学習成果	主な講師等
1	芝久保	親子体験講座 自然の恵みで染めもの体験	交流	11月30日(土)	親子12組 32人	身近にある西原自然公園の成り立ちや四季の様子を知り、自然の不思議を感じると共に、草木染めを通してものづくりの楽しさ・達成感を味わった。	浦野政子・池田干城 (西原自然公園を育成する会)
2	芝久保	子ども実践講座 書き初めに挑戦!	学習・自己実現	12月26日(木) ①10時～11時半 ②13時～14時半 ③15時～16時半	延べ37人	市内の小中学校各校から多くの参加者が集まった。課題に集中して取り組み、楽しく交流を持ちながらも達成感を味わうことができた。	伊藤邦子(書道講師)
3	芝久保	健康講座 笑顔で健康な身体づくり! ～大人の食育講座・リトミック～	交流	10月29日から 11月26日 火曜日 全5回	延べ71人	健康な身体づくりを目指し、今年は食育講座も取り入れて栄養指導と調理実習も行い身体の内側から健康を目指した。生活の中で音と触れあうリトミックがリハビリとなり、楽しくリフレッシュでき生活習慣病予防に繋がった。立ち上がったサークルも紹介し地域づくりの交流となった。	森野恵子(食育アドバイザー・NPO食育倶楽部代表) 宮良愛子(ダルクローズ・リトミック国際ライセンス取得講師)

4	芝久保	防災講座 被災したらどうなる？ どうする？	地域づくり	12月3日(火)	27人	避難所では住民同士の助け合いが必須で、地域にサポーター（協力者）を増やしていくにはどうすればよいか、皆で話し合った。その中で、日ごろから住民同士がコミュニケーションを取れる関係を築くことの大切さが語られた。また自治会や保護者会などの場で、あるいは知人友人に、避難訓練や勉強会への参加を呼び掛けるなどの案も出た。	小野修平（防災アドバイザー・ジョージ防災研究所代表）
5	谷戸	地域防災講座 きっと役立つ！アウトドア	学習・自己実現	10月20日 27日 11月10日 日曜日 全3回	大人 17人 小学生 8人 延べ61人	初歩的なアウトドアの知識を学び体験することで、ライフラインが止まった時に役立つ事を知り、グループワークにより各家庭の防災対策のアイデアも共有できた。また、災害時に身の回りのもので工夫して自分ができることを考えるきっかけにもなった。	松嶋 眞（B級アウトドア愛好家） 砂子啓子（i-くさのねプロジェクト・防災士）
6	谷戸	教養講座 大人の音読	学習・自己実現	11月13日・20日 水曜日 全2回	延べ38人	自分の声の出し方や聞こえ方を知り緩急、強弱、高低、間で伝わり方が変わることを理解した。同じ詩を読んでも読み手の個性があり言葉に出して伝える大切さを学ぶ機会になった。	天野ひかり（NHK教育「すくすく子育て」元キャスター、フリーアナウンサー）

7	谷戸	芸術講座 北斎を語る	学習・自己実現	10月23日 30日 11月6日 水曜日 全3回	延べ52人	富嶽三十六景の作品について深く学ぶことができ、美術鑑賞をする意欲向上に結び付いた。街歩きをすることにより葛飾北斎とその作品について学びを広げる機会になりサークルが立ち上がり1月から活動を始める。	五味和之（元すみだ北斎美術館学芸員）
8	ひばりが丘	ロビー企画	地域交流	①6月23日(日) ②10月27日(日) ③12月8日(日)	①84人 ②56人 ③62人	ロビーという開放感のある場所での上演は、集会室やホールで行うものとは異なる新鮮さがあり、出会いのなかったサークル同士の交流が生まれ、互いの刺激となって出演団体の活動モチベーションアップに繋げることができた。	① 朗読「草の会」、オカリナ保谷グループ ② ピッコロ音楽館、ひばりが丘ギターサークル ③ 朗読劇の会 りふれ、マンドリンアンサンブルひばり
9	ひばりが丘	防災講座 みんなで考えよう街の防災 ～わが子、わが孫、妊婦さんを守るために～	学習・自己実現	11月9日・23日 土曜日 全2回	延べ27人	当館周辺に多い集合住宅に居住する子育て中の親、乳幼児や妊婦等の災害時における要配慮者の防災対策を自助と周辺住民との共助の両面で参加者とともに考えた。ここで学んだことは、地域に持ち帰り、周辺住民を巻き込むことを確認した	小野修平(ジョージ防災研究所・防災アドバイザー)
10	保谷駅前	親子で楽しむ講座 口承文芸へのご招待 ～子どもの豊かな成長のために～	学習・自己実現	10月23日(水) 11月2日(土) 9日(土) 全3回	延べ60人	昔話を正しい内容のまま対面で話をして伝えることの重要性と役割を学んだ。また、わらべうたや料理を通して心の触れ合いの大切さを学んだ。更には参加者同士の交流も深め、子育てのヒントを考える機会となった。	小澤俊夫（筑波大学名誉教授、小澤昔ばなし研究所所長） 木村はるみ（教育研究所ゆずりは代表） 西東京市地域活動栄養士会

11	保谷駅前	多文化カフェ	交流	①7月6日(土) ②12月7日(土)	①15人 ②19人	タイ出身の講師とは一緒にタイ料理を作って食べ、参加者それぞれのタイ文化体験について語り合った。ロシア出身の講師からは、ロシアの文化、歴史、地理、生活様式などについての話を聞きながら、お茶とお菓子を楽しんだ。	① 関野スリヤカモン (タイ出身) ② ミハエル・コトホフ (ロシア出身)
12	保谷駅前	多文化共生講座 外国人とともに生きるまちづくり	学習・自己実現	11月2日から 11月30日 土曜日 全4回	延べ51人	昨年4月から施行された改正入管法について知り、課題点や、法改正の実効性について学んだうえで、どのような観点で多文化共生の地域を作っていけばいいのか、同じ地域に住む市民同士で考えあうことができた。	小山紳一郎 (SIDラボ・明治大学兼任講師) 山田 泉 (にんじんランゲージスクール校長)、大木和弘 (大木和弘法律事務所、弁護士) 山辺真理子 (NPO法人西東京市多文化共生センター理事)
13	保谷駅前	環境講座 ～身近な緑地を探ってみよう～	学習・自己実現	10月31日(木) から 11月29日(金) 全5回	延べ100人	西東京市の緑地がどのように保全されているかをフィールドワークで学習し、保全地域の現状を知ることができた。特別緑地保全地区でボランティア活動をされている高橋家屋敷林保存会の方々に協力していただき、実生の寄せ植えや染物を体験することで楽しみながら環境について学ぶことができた。	高橋いく (野草に親しむ会会長) 堤 順子 (高橋家屋敷林保存会) 椎名豊勝 (日本樹木医会 東京都支部長、国営昭和記念公園自然観察ツアー講師) 江田章子 (保谷クロッキー会・グループAD)

14	保谷駅前	<p>人権講座 多磨全生園のコミュニケーション(自治)とハンセン病文学を学ぶ</p>	学習・自己実現	<p>11月14日から 12月5日 木曜日 全5回</p>	延べ63人	<p>ハンセン病文学や多磨全生園居住者の歴史や暮らし自治を知り、国の隔離政策の誤りやそのことに起因した差別、人権侵害をリアルに知ると同時に、文学を通じて全国の療養所の入居者が交流しあう中でらい予防法廃止への当事者の運動の原動力となって来たことを知った。 学習を通し、人間の尊厳と協同することの強さを学んだ。</p>	<p>大高俊一郎（国立ハンセン病資料館事業部社会啓発課長） 木村哲也（国立ハンセン病資料館事業課主任） 金貴粉（国立ハンセン病資料館事業部社会啓発課）</p>
----	------	--	---------	---	-------	---	---